

宝塚市まちづくり協議会代表者交流会（令和8年度・第1回）議事概要

日時 令和8年（2026年）4月8日（水）14:00～16:00

場所 宝塚市役所 第2庁舎 会議室A・B

出席者

<まちづくり協議会>

まちづくり協議会名	参加者名・役職	参加方法	
		対面	オンライン
仁川まちづくり協議会	井手 義明会長	●	
宝塚市高司小学校区まちづくり協議会	川島 昭会長	●	
宝塚市良元地区まちづくり協議会	平田 武二会長	●	
宝塚市光明地域まちづくり協議会	小林 敏明会長	●	
宝塚市末成小学校地域まちづくり協議会	加藤 富三会長	●	
宝塚市西山まちづくり協議会	久保田 洋一会長	●	
まちづくり協議会コミュニティ末広	溝本 直人代表	●	
宝塚第一小学校区まちづくり協議会	山本 敏晴会長	●	
逆瀬台小学校区まちづくり協議会	石谷 清明会長	●	
宝塚市すみれガ丘小学校区まちづくり協議会	島津 早苗代表		
宝塚小学校区まちづくり協議会	喜多 毅会長	●	
売布小学校区まちづくり協議会	菅野 伸和副会長	●	
小浜小学校区まちづくり協議会	藤本 真砂子会長	●	
宝塚市美座地域まちづくり協議会	糸瀬 豊光代表	●	
安倉地区まちづくり協議会	岡本 康夫会長	●	
宝塚市長尾地区まちづくり協議会	阪上 良彦会長	●	
中山台コミュニティ	松下 義弘会長	●	
宝塚市山本山手地区まちづくり協議会	奥野 廣明政策室長	●	
宝塚市長尾台小学校区まちづくり協議会	前田 幸夫会長	●	
宝塚市西谷地区まちづくり協議会	二井 久和会長	●	

<その他>

市長

議事1の関係各部長等

市民交流部 小南部長、新城次長

市民協働推進課 久住係長、和田係長、押川職員他

社会教育部 藤田部長

みつばケアステーション ケアマネージャー 山内氏

いまい内科クリニック 医師 馬淵氏

総合防災課 出水係長、吉岡係長

宝塚市社会福祉協議会 地区担当支援課 前菌課長他

宝塚NPOセンター 平岩氏他

議事概要

1. 持続可能な子育て・教育にかかる助成のあり方について（学童保育、私立保育所助成、乳幼児・子ども医療助成、学校給食、母子保健）

市長より、標記について、配布資料に基づいて説明があった。質疑応答の内容は以下のとおり。

ア 放課後の育成会等を少子化で充実させるということで、個々の支援を丁寧にしていこうとするのはわかるが、幼稚園の入園児がどこも少なくなっている現状について、将来的に幼稚園を使って子育ての充実を計っていったらと思っているが、市長の考えはどうか。

イ （市長）幼稚園について、保育園との連携をより強めていく方向になると思う。現実幼稚園を見ると、メインは昔ながらの古典的な幼稚園の使われ方もあるが、公立幼稚園は特に発達特性のある子どもが非常に多くなっている。その意味で一定の役割はまだあると考えている。将来的にはおっしゃるように、今後の役割を考えていけないと思う。私個人として、保育園や幼稚園という考え方をもう少し統合化していかないといけないと考えている。以前から統合化の話はあるが、本当の意味で統合はまだされていない。様々なハードルがあり、実際に保育の現場でも幼児教育的なものは行われている。幼児教育の場である幼稚園においても保育的な長時間の保育が行われている。しかし、立て付け上もともとどっちから来たかで大きく差がある。それを本当の意味で、多くの保護者が働いている状況でその子どもにとって最も良い成育環境とは何か突き詰めて考えていくと、こういうところをベースにしながらしっかりとした幼児教育があるというかたちになっていく。そのように集約していくが、一方で私立の幼稚園にもニーズがある。私立の幼稚園でも質の高い幼児教育を提供したいとのことであれば、民間の話なのでぜひ進めていただきたい。公立の幼稚園は、先程申し上げたように現状は発達特性のある子どもたちが行くことが多く、そこをいきなり無くすとその子どもたちの行先がなくなってしまう。そこを含めながら方向性として公立の保育園に吸収できるのか等を踏まえながら少しずつ変わっていくと考える。その中で建物や今までのリソースについて、もしかしたら地域の子育てに活用していくかもしれない。今回は話に入れていないが、大きな課題として認識している。

ウ 放課後育成会について、校区外育成会の利用開始と書かれている。今は校区内の育成会となっているが、校区外となると移動が必要である。送り迎えは市が手配するのか。

エ （子ども未来部）校区外利用について、小学校同士で距離が近いところがある。そういうところに限定して対象にしようと考えている。送迎や行き帰りについては、まだ十分に保護者とお話しできていないが、保護者と調整のうえ保護者責任でやってもらう想定で進めている。

オ 移動の保険等もすべて保護者責任ということか。

カ （子ども未来部）保護者の方で責任を持っていただく形で進めようとしている。

キ 夏期臨時地域児童育成会について、うちは3年前からやっており、まちづくり協議会が10人くらい入っている。有償ボランティアのため比較的手を挙げてくれる人も多いが、小学生の層が厚くいろんな児童が来られるので大変な部分もある。お願いしたいのが、遊び道具や勉強の時間などいろいろあるが、その辺りがまだまだ不足していると感じるため、他の校区の皆さんにもこういう形で児童と関わってほしい。やってみて分かったことは、すごく先生は大変だとわかった。

給食について、宝塚市では自校炊飯でやっている。他市については、セントラルキッチンで非常に合理的にコストを抑えてやっている。味は宝塚市が美味しいということだが、ほかの市も味にしっかり力を入れている。このままいくと小学校にばらつきがあり、100人の学校にも1000人の学校にも人手が必ずいる。宝塚第一小学校の給食室はすごく狭く、そういうインフラを考えるのであれば、将来的に本当に自校炊飯で続けていいのか検討していくべきだと思う。自校炊飯でないとおいしくない当初はあったが、それは違うと思う。

最後に、資料の中で赤字が26億円とあるが、これは財政見通しという意味か。決して赤字が出るということではなく、将来的に資金が63億円足りないと予想されたのがかなり減ってきたという理解でいいのか。

ク (市長) 夏期臨時地域育成会について、ご意見いただきありがとうございます。教育委員会にお伝えして、どういうことができるのか検討したい。

給食について、とおっしゃるとおりだと思う。ディスカッションしてもいいと思う。現状を精査していくと、セントラル方式に変えるとなると宝塚市の地形上1か所では済まない可能性が高い。更に、搬入のための入り口を造らないといけないが、宝塚の道が狭く、小学校に小さいトラックしか入らず、何回も行かないといけない。また、小学校の給食室がいらなくなると、学校の設計も変わってくる。一方で、給食センターはかなり広い設計面積が必要であり、そう考えると中学校の給食を始めるのが今の時期であれば、セントラル方式は十分検討の余地があった。自校炊飯しか選択肢がないとは思っていないが、現状からこれから10年20年のことを考えて、転換する方がコストが高いことを考えるとしばらくはこれで行くと考えている。学校の再編や様々な形で人口構成は変わっていくので、その中で当然ながらセントラル方式の話も選択肢として挙がってくると思う。

財政見通しについて、今まで10年間の累積赤字は63.2億円と言っていたのが、今は22.9億円という話なので、同じ数字である。

ケ 関連すると思うが、中山台は小中一貫校を宝塚市で最初にやっていくと提案されて何回か話し合っていたが、パナソニックホームズ株式会社との包括連携からその話が中断したままである。小中一貫校の旗は降ろされているのか。まちづくり後期計画に関係してくるため教えてほしい。

コ (学事課) 中山台の小中一貫校の計画については、現行進んでいる状況と聞いている。担当課が違うのでこの場で具体的な話は申し上げられないが、パナソニックホームズ株式会社が入られてこの計画については順次進めていくと聞いている。

サ (市長) 学校の再編というのはどこの学校でもそうだが、とても時間がかかる。校舎をどうするか等10年20年単位になってくるので、すぐに解決できるわけではないが、降ろしているわけではない。ちゃんとやらないといけないところはちゃんとやろうという合意はできており、塩漬けにするつもりはない。しかし、進み方は考えるより時間がかかる。

シ 市民協働推進課に質問するが、このテーマをなぜ取り上げたのか。それを市長が説明されるということはとても重要なテーマだと考えるが、理由を教えてください。

ス (市民協働推進課) まちづくり協議会代表者交流会を月1回させていただいており、その場でそれぞれのまちづくり協議会の情報交換をさせていただくと同時に、市からの情報発信の場としてもこれまでも活用させていただいている。以前も森市長や山崎前市長にも来ていただいて、市として取組を進めるにあたってより広い市民の方に、直接ご意見を聞けるチ

チャンスを探している。森市長になってから市民と市長の対話ひろばをやっているが、それだけでなく実際に地域でまちづくりされている方の生の声を聞きたいというところで議題設定させていただいて、重要な議題なので市長にもお越しいただいて、市長から皆さんにご説明して、質疑回答いただくということで今回の場を設定させていただいた。

セ 大きな方針展開をしていく場合に、やらなければいけないと考えると、非常に苦しい内容になる。少し重点志向という考え方でご説明いただいた方が分かりやすいと思う。すべてやらなければならないと、我々が住民の方に市長が言っていたことを伝えるときに、大変難しい説明をしないといけない。重点志向も必要であるので、参考にさせていただきたい。

ソ 夏期臨時地域育成会のような子どもの居場所づくりをまちづくり協議会でやっている。一方で、教育委員会から夏休みに学校に来ることは好ましくないということで、一時は教育委員会から助成をもらっていたが、夏休み中は学校を使わない方向で動いていくと、宿題ひろば等でも助成がもらえなくなっていく。居場所というのは、地域の人達でもその気になれば居場所を作ることができるので、そういう面でいえば教育委員会側の考え方を改めないといけないし、一方でそれに対する助成もやっていかないといけないと思う。

タ (市長) おっしゃるとおりだと思う。コミュニティスクールという考えが始まってから、教育委員会が学校を地域に開放するようになったと思う。教育委員会の考え方としては、校内にいる児童に対し、特に安全性について責任を負わないといけないという考え方が非常に根強い。地域に開放するとどんな人が来られるかわからない。さまざまな心配事があつたり、責任を負わないといけないので教師が常に張り付いていないといけないなどの懸念がある。そういうご意見をいただいていることは聞いているため、教育委員会としていかに安全を担保しながら学校の先生も安心して地域の皆さんに入ってもらえるか、市として全力を挙げて進めている。また、学校の自治が強く、校長先生ごとに権限があり、教育委員会で旗振っても宝塚市全域でそのままいくかとはならず、校長先生によって違ってくこともある。課題意識はあるが今すぐに解決できることではないため、こういうことをやりながらいい形を探っていきたい。

チ その件の考え方については、しっかりと地域と話し合った中でお互い信頼関係を築いていきたい。福祉の問題については、市が知ったときにはすでに遅い状況が多い。例えば、妊娠や出産について、個人情報の問題もあるかもしれないが、地域にも共有できたら、何か協力できるかもしれないし、同時に何かあつたときに地域から呼びかけることもできる。行政からの情報提供や専門職の方の共有など、地域をうまく使う仕組みを作っていくべきだと思う。教育に関する問題としては、部活動（地域移行）や音楽隊があるが、小さなころから音楽に触れることで集中力が高まるなど重要であるが、そこにメスが入ろうとしている現状で、どうしたら子供たちにとっていいのか考えていただきたい。

ツ (市長) 地域展開も音楽隊もそうだが、財政難だから切っていくのではなく、それなりの取捨選択や仕組みを考えていくことを認識しながら進めている。地域移行は国からの指示でやらなければならないという部分があるが、おっしゃっていることは重々理解できる。確かに、情報共有もできた方が効率的であり、おっしゃることはよく分かるが、市役所内でも情報共有ができないくらい個人情報の取り扱いが厳しくなっている。今後も課題意識として持ちながら、できることとできないことを整理して、地域の皆さんにご活躍いただけるようにいい形を探っていきたい。

- テ 長尾幼稚園は数年前から3歳児の受け入れを始めたが、去年、3歳児は定員だが、4歳以上は定員割れしていると聞いた。もったいないと思う、何か手を考えてほしい。
- ト (市長) 保育園の待機児童は0が続いているものの、隠れ待機児童がいる。一方で幼稚園の2年保育は人気がなくなっており、幼稚園のあり方を包括的に考える時期に来ていると思う。先生方に活躍いただくことやスペースの活用については共通に意識しており、考えていきたいと思っている。
- ナ 当地域はまち協の中で初めて学童を作った(すぎの子クラブ)。当時からいっぱいだったため作ったが、今だにいっぱい。学校内にもう1つ学童があるがそこもいっぱい。場所を移転したが、移転前の場所は5年くらい空いている。長尾南幼稚園も2年前に閉まった。もう少しで、近くの丸橋幼稚園も閉まると聞いている。市の方針として、公立幼稚園はあまり力を入れないということかと思っているが、先ほど市長から場所がない、先生が集まらないという話があったが、降って湧いたようにワースト2位である。保護者からは困っているという話を聞く。近隣の保育園が来年2つ閉まるというのもほぼ確定しており、約60~70名が慌てている。これまでの教育委員会の取組に不手際があったのではと思う、反省してもらいたいと思っている。
- ニ (市長) 就任して1年のため、過去のことをあまり話せないが、例えば、長尾南小学校の待機児童が多いため、長尾南幼稚園は使えないのかというのは自然に思う話であるが、難しい部分がある。そうした中でも、保護者の声や内部の調整の結果、今年度から長尾南小学校の教室を一つ使わせてもらうこととなり、育成会を広げることとなった。今までなぜ進まなかったのかということについては、色々聞いているが、様々な課題があるという認識。コミュニティスクールを地域に広げていく話と同じで、教育委員会や学校等、なかなかそこだけが問題だと言い切れないと感じている。ただ、一番大事なのは、課題があればそれを解決していくことであり、今回であれば放課後の子どもたちの居場所がなく保護者が満足に働けないということは課題であると考えている。今回、教育委員会や市長部局も全部含めて包括的に解決していくという力の入れ方はしているので、そこはご理解いただけたらと思う。

2. 人事異動に伴う職員の配置

3. 宝塚市まちづくり協議会代表者交流会(令和7年度・第10回)議事概要の確認

各まちづくり協議会代表者により、上記議事概要の確認が行われ、ホームページへ公開することが承認された。

4. 宝塚市地域包括ケアシステム研究会~3つの若葉を育てる会~より在宅療養ハンドブック出前説明会について(3つの若葉を育てる会)

3つの若葉を育てる会より、標記について、配布資料に基づいて説明があった。質疑応答の内容は以下のとおり。

ア このハンドブックは非常にいいハンドブックで、行政の医療体制や個人の医療費というところで非常に重要である。できるだけ皆さんに見てもらえるように、全戸配布してほしい。難しければ、重要な拠点に何部ずつか置いてとにかく読んでもらおうと、出前講座に来てもらう前に、非常に知識が高まっていいことなので、考えていただきたい。

- イ (3つの若葉を育てる会) ありがとうございます。
- ウ データはいただけないのか。
- エ (3つの若葉を育てる会) 市のホームページに掲載しており、配布したものと全く同じものをダウンロードできる。毎年予算を取っていただいて、6000部配っているが、クリニックや包括支援センターに置かせていただいたり、最近は薬局等の医療に関わるところにも置かせていただいている。そうすると結構6000部はあつという間なので、少しずつ渋りながらこういう勉強会ではどんどん配っているところである。もしよければお越しいただけたらいいし、皆さんからお声が上がればもう少し予算が付くかもしれない。
- オ 今すぐはもらえないのか。
- カ (3つの若葉を育てる会) 今日は持ってきていないが、印刷いただいたものがちょうど手元にあるので、必要であれば市民協働推進課にお持ちしたらいいか。高齢福祉課に置いていただいているが、そこからいっぱい取ってしまうとなくなってしまうかもしれない。市役所にも置いてあるが、もし必要であれば部数によっては市の予算とのご相談になってくると思う。
- キ 出前は無料なのか。
- ク (3つの若葉を育てる会) もちろん無料である。
- ケ 何分くらい見積もったらいいか。
- コ (3つの若葉を育てる会) 頂ける時間の範囲で考えるが、30分から1時間の間で大体やらせてもらっている。1時間半でも内容もいろいろできるし、時間があればもしかしたら老後のことを一緒に考えさせていただくこともできる。
- サ 関係者が結構おられると思うが、そういった方とグループトークはできるのか。
- シ (3つの若葉を育てる会) 人数にもよるが、5~10人くらいだったら日程さえ合えばなんとかなると思う。そういうお声をいただいたら、来てくださっている方々に声をかけて日程調整できたら有り難い。
- ス 講座だけでなく、実際に説明いただいた後に、グループで話し合いをして、その中に在宅療養に関わっている方々や専門の方が各グループ入って行ったらいいと思った。
- セ (3つの若葉を育てる会) とっても有り難く、ぜひやらせていただきたい。目の前でいったり来たりしながらお話ができたなら一番ありがたいと思う。
- ソ 市民協働推進課に後で申し込んでおくので、できる限り部数を確保してほしい。
- タ (市民協働推進課) 市民協働推進課で取りまとめることは可能だが、何部用意したらいいかというところと、カラー刷りしているものが何部あるのか現在把握していない。
- チ 申し込むから部数を集めてほしい。
- ツ (市民協働推進課) 承知した。では、部数をまた教えていただきたい。ハンドブックは高齢福祉課に市民協働推進課から依頼して、お申し込みがあった部数については提供させていただく。出前説明会については、チラシに記載してある事務局に直接お申し込みいただきたい。「宝塚市 在宅療養ハンドブック」と検索するとすぐ出てきて、検索IDだけを共有させていただく。「1057967」と市ホームページに入れていただくとすぐダウンロードできるようになっているため、こちらもご活用いただけたらと思う。

5. ペット避難訓練等に関するアンケート調査の結果について（総合防災課）

総合防災課より、標記について、配布資料に基づいて説明があった。質疑応答の内容は以下のとおり。

ア ベストは10枚あるのか。

イ （総合防災課）10枚ある。

ウ トイレはいくつ入っているのか。

エ （総合防災課）便器にはめてもらうもので携帯トイレは各学校に200枚配置している。便座は各学校で個数は変わってくるが、最低でも1個は配置するようにしている。トイレ用のテントについて、現在あるものは上が見えてしまうが、中で着替えられるようなテントを各学校に1個配置できるように進めているところである。

オ うちのまち協では、ペット避難は机上では言っているが実際はできない。地域人口が多いこともあってスペースがない。調べてみると、新聞社のデータでは、熊本地震の時は指定避難所に避難した人は17%くらいであとは自家用車が47%であった。今の時代の流れとしては地震の場合は、プライバシーの問題とペットの問題からそのような傾向がある。これから考え直すと宝塚市でもし地震が起こった場合はこういう傾向があると思うが、この結果についてどう思われるか。

カ （総合防災課）おっしゃられたようにペットは犬や猫に限らないが、災害時には、ペットを連れて避難する可能性があるため、まず普段からペットがゲージに慣れておく必要がある。避難生活が長くなった場合にずっと繋いでおくことは難しいので、市はペットのトレーニングを平時の時にしてほしいと啓発している。地域でも、ペット避難に向けて、まずゲージに慣れて避難できるようなしつけを各自していただきたい。そして、避難所にはペットの食べ物やトイレは用意していないため、飼い主が用意して避難してほしいことも啓発している。ぜひ地域でも、その旨お伝えいただきたい。

キ ファーストミッションボックスの件について、岡崎市が1つのモデルになると思うが、個々のところで作るとそれなりのコストがかかるし、作ったところで体育館に1つ置くだけだから、宝塚市でまとめて作って小中学校の避難所に置いたらどうか。テレビで見たが、そのボックスだと小さくてファーストミッションボックスは入らないと思うし、外に置いておくので、頑丈なやつを作らないといけない。市がまとめて作っていただいたら非常に便利だと思うし、他のまち協でも良いとおっしゃっているので検討していただきたい。

ク （総合防災課）中身の検討も必要かと思うが、それ以前に学校とのファーストミッションボックスを設置することに対する合意形成も大切だと思うので、その辺りも含めて検討させていただく。貴重なご意見をいただき有難い。

6. 地域ごとのまちづくり計画

(1) (※再周知) 「対話」「進捗管理」の仕組みに対するアンケートご協力のお願い【4/24(金) 〆】

(2) (※再周知) 総会での周知(令和7年度進捗確認、後期計画の策定)について
市民協働推進課より、(1)～(2)について、配布資料に基づいて説明があった。

7. 市民協働推進課からのお知らせ

- (1)宝塚市きずなづくり推進事業補助金 活用事業の募集について
- (2) (※再周知) 令和8年度(2026年度)まちづくり協議会代表者の個人情報の提供について
(お願い)【5/29(金)♫】
- (3) (※再周知) 令和7年度(2025年度)まちづくり協議会補助金の実績報告の提出【4/17
(金)♫】
- (4)つながりカフェの開催(4月24日(金))について
- (5)市民と市長の対話ひろば(4月)の開催について(市民相談課)
市民協働推進課より、(1)～(5)について、配布資料に基づいて説明があった。

8. 社会福祉協議会からのお知らせ

- (1)ちからたくわえ中について
- (2)見守り配信について
- (3)クールシェアたからづか2026 スポット募集について
- (4)令和8年度 共同募金公募配布について
- (5)さろん便について ※当日追加
社会福祉協議会より、(1)～(5)について、配布資料に基づいて説明があった。

9. その他

10. 今後の日程

市民協働推進課より、配布資料に基づき、今後の予定について周知があった。